

お客様限定サービス

前田昌孝氏の株式コラム
「今週のマーケットエッセンシャル」
無料配信サービスお申込み受付中!

「今週のマーケットエッセンシャル」の無料配信サービス

「今週のマーケットエッセンシャル」は、株式市場に精通した元日本経済新聞編集委員の前田昌孝氏がマーケットを俯瞰し、相場感や見通しなどを詳しく、かつ分かりやすく解説したコラムです。JIA 証券のお客様限定で毎週水曜 メール配信いたします。

「今週のマーケットエッセンシャル」概要

主 筆	前田 昌孝 (まえだ まさたか)
更 新 日	原則 毎週水曜日
配信方法	お客様のメールアドレス宛に配信
対 象	当社に口座を保有されているお客様限定
お申込み方法	お電話 (0120-69-1424 平日 9:00~17:00) または 資料請求フォーム



前田昌孝氏の略歴

1957 年生まれ。1979 年東京大学教養学部卒、日本経済新聞社に入社。産業部、神戸支社を経て、1984 年に証券部に配属。米国ワシントン支局記者、日本経済研究センター主任研究員などを務めた後、1997 年からは証券市場担当の編集委員に。2022 年 1 月、日本経済新聞社を退職。日経編集委員時代には、日経電子版のコラム「マーケット反射鏡」を毎週執筆したほか、日経ヴェリタスにも定期コラムを掲載。日経退職後も『企業会計』(中央経済社)や『月刊資本市場』(資本市場研究会)に定期寄稿を続けている。

【著書】

- 『株式投資 2022~賢い資産づくりに挑む新常識』(2021 年)
- 『株式市場の本当の話』(2021 年) 他多数

下がると株価に回復する...一けん引力失う世界経済

【今週のマーケットエッセンシャル】コラム版 (2022年2月1日発行)
主筆・前田昌孝 (元日本経済新聞編集委員)

なぞもつ話題にならないのか不思議なのが、国際連合基金 (IMF) が 1 月 28 日に発表した新しい世界経済見通しだ。新型コロナウィルスのオミクロン株の広がりが毎週同様の足を引き続けることは確かだろうが、IMF は 2023 年も世界経済の成長率が低下するとみている。株式は買いきい。日経平均株価は 1 月 27 日に 2 万 6 千 7 百 70 円まで下がったが、何か転換のきっかけはあるだろうか。

国/地域	2021年		2022年		2023年	
	2021年	2021年	2022年	2022年	2023年	2023年
世界全体	5.9	5.9	5.0	4.9	4.7	4.7
中国	8.0	8.0	8.0	7.9	7.7	7.7
日本	2.4	1.6	2.4	2.3	2.2	2.2
米国	6.4	6.5	6.4	6.3	6.2	6.2
欧州	4.7	4.5	4.7	4.6	4.5	4.5
インド	9.0	9.1	9.0	8.9	8.8	8.8
ブラジル	9.9	9.9	9.9	9.8	9.7	9.7
ロシア	2.9	1.1	2.9	2.8	2.7	2.7
新興・途上国	4.1	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9

注) 成長率は年率

IMF は 2 月 1 日に 1 回、世界経済見通しを大幅に下方修正したのが、直した「最も厳しい見直し」を来週 7 月と上方修正を繰り返してきまし、ゾウ年、さらに 1 月の半方修正を迫られ、2 月 1 日の半方修正の 1 9 年を 1 0 0 としたくらいになるまで下がった。

世界経済はどうしても「中国」というけん引力を失いつつあるのだ。株式投資信託の運用担当者などの観点上、資金の80%を個別株投資に振り向けていなければならない投資家は、どこまで下がるか気がでないかもしれない。特に成長株では運用の巧みが試される。判断を間違えれば、プロの運用者として立場を迫られる可能性もある。

この点、長期投資の個人投資家の関心事は、絶対的買い場だと感じられるほどに株式相場が下がってくれるかどうか。投資手法は一人ひとり違うから、うまくいかないかもしれないが、楽観が示している投資部門別売買動向や日経が公表している資金調停統計をみる限り、個人投資家はアベノミクスから始まった株高相場で機動的に保有株を売ってきて、手元資金は豊足に持っている。

日経平均株価、下がらなるとどこまで?

対象の多くは銀行の普通預金やタンス預金に留まっておく、「もうこれ以上は下がらないだろう」ところまで、株式相場が下落するのを待っているのである。筆者には前回の先行きを予測する能力はないが、一般的に言えるのは、個人投資家の水準と過去の相場と同様と同様と同様と同様 (P.B.R.) 1 割前後の水準と過去の相場時の下落率と同様まで下